

2019 全国安全対策委員長会議議事録

日時:2018年11月3日(土)

10:00～11:30 役員打ち合わせ

13:00～15:30 全国安全対策委員長会議

場所:渋谷区役所 勤労福祉会館第1洋室

役員:白石博基, 秋元 洋一, 鈴木 恵太, 田村一司, 富樫 泰一

出席者:各加盟団体安全対策委員長(または代理)

司会:田村一司

次第

1. 出席者紹介

(公財)全日本スキー連盟役員

担当理事:白石博基

安全対策委員長:秋元 洋一

安全対策副委員長:鈴木 恵太, 田村 一司, 富樫 泰一

加盟団体安全対策委員長(または代理)21名

北海道 安全対策副部長 山村 誠

青森県 安全対策委員長 竹原 伸郎

岩手県 安全対策委員長 高畑 伸也

宮城県 安全対策委員 三神 良太

秋田県 安全対策委員長 高橋 一彰

茨城県 安全対策部長 高瀬 勝則

栃木県 安全対策委員長 新井和夫

群馬県 安全対策部長 森山直温, パトロール委員会委員長 中澤 卓

埼玉県 安全対策副委員長 佐藤 俊寿

千葉県 吉田 浩二

東京都 教育本部安全対策部長 三井 晃一

神奈川県 安全対策委員長 上杉 一哲

山梨県 安全対策委員長代(理事務局次長) 佐藤眞久

長野県 安全対策部長 田村 一司(役員兼務)

石川県 安全対策本部長 吉本 幸司

福井県 安全対策部長 扇浦 行弘

愛知県 安全対策委員長 福岡優子

岐阜県 安全対策部長 内方 陽一

滋賀県 安全対策部長 長尾 卓哉

兵庫県 安全対策部委員会総務 米田 幸雄

広島県 安全対策委員長 平川 朝水

2. 資料確認

資料 01_0:H31 年度全国安全対策委員長会議加盟団体活動報告一覧

資料 01_1:北海道スキー連盟安全対策部(H29-30)報告書

資料 01_2:岐阜県スキー連盟安全対策部事業報告

資料 01_3:2018 年度スキー場傷害報告書(公益財団法人北海道スキー連盟教育本部安全対策部)

資料 01_4:平成 30 年度山形県スキー傷害取り扱い件数及び内訳

資料 02:2019 加盟団体主管スキーパトロール研修会一覧

資料 03:公認スキーパトロール検定スノーボード受検の取り扱いについて(案)

資料 04:2018 年度全国安全対策委員長会議議事録

資料 05:第 23 回雪上滑走具関係団体との意見交換会議事録

3. 開会宣言 秋元洋一委員長

4. 白石博基担当理事あいさつ

東京都スキー連盟教育本部長として長年スキー指導に携わってきたが、安全対策とは接点がなかった。しかし、スキー事故やケガに対するトラブルが多く聞かれる時代になってきているので、スキー受講者・指導者に対する安全啓蒙活動等を推し進め、この安全対策委員会が全国に誇れる組織となれるよう、各都道府県連の皆様にも協力してもらいたい。

5. 審議事項

(1)2019SAJ 教育本部安全対策部事業要項【OB2019 pp.48-54】

昨年度の事業運営に協力いただきありがとうございました。

全国安全対策委員長会議は、過去 2 シーズン全国スキーパトロール総会中に開催してきたが、シーズン前での開催希望が多かったためこの時期に移した。次年度も同じ時期に開催したい。

今年は役員改選期なので、各ブロックのパトロール技術員相互の交流が図れるよう、本州(東北から西日本ブロック)のパトロール技術員研修会を 1 会場で行う。次年度は各ブロック開催とする。

昨年度のパトロール検定会は、北海道で行われていた技選と日程がかぶらないよう 2 月中旬に行われたが、今シーズンは 3 月 2 週に戻した。

全国スキーパトロール総会を 3 月中旬に北海道・富良野スキー場で行うが、各加盟団体宛に通知書を送るので多くの参加を希望する。次年度以降は他ブロックで順次開催し、各地域の雪上安全に関わる他団体との交流を図るような行事としたい。

スキーパトロール研修会(西日本会場)は、鳥取県・だいせんホワイトリゾートで行われるが、近畿・西日本ブロックは加盟団体主管のパトロール研修会が開催しにくいので SAJ 開催とした。【秋元】

(2)2019SAJ 教育本部安全対策部研修テーマ【OB2019 pp.94-99, DVD】

ここ数年スキーパトロールに必要なスキー技術である「横滑り」について研修テーマとしてきたが、今シーズンは横滑りと横滑りをつなぐ切り換え動作に着目し、高い姿勢での切り換えおよび低い姿勢での切り換えを研修テーマ

マとした。切り換えを成功させるには余裕を持つことが大切で、その練習方法を DVD で紹介した。【鈴木】

(3)2019 加盟団体主管パトロール研修会一覧【資料 02】

各地域の実情に合い、かつ特色を持った研修会を実施してもらいたい。【田村】

・石川県スキー連盟吉本本部長より、研修会開催時期が早く他県連に通知する時間的余裕がなかった所以他県連参加不可とし、研修内容は、JPTEC ファーストレスポonderコースを全員受講し高エネルギー外傷に対する処置方法を学び、教程に基づいたロープワークに加えて、ロープ降下・引き上げ訓練を実施した旨、説明があった。

・今シーズン初めて加盟団体主管の研修会を開催する栃木県・新井安全対策委員長より、ハンターマウンテン以外ではできないような研修会の開催を検討している旨、説明があった。

(4)パトロール受検年齢引き下げについて

パトロール受検者増を図るため、準指導員受検年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられたこと、プライズテストの受検年齢制限が撤廃されたことを受けて、パトロール受検年齢の引き下げ(20 歳から 18 歳へ)を、5 月の教育本部会議に提案し本部理事会で検討されたが、スキーパトロールはスキーヤーの人命に関わる重い責任を負う可能性があるため、従来通り 20 歳以上とするよう理事会から答申があった。【秋元】

(5)ボードパトロール検定について【資料 03】

昨年より、スノーボードによるパトロール受検の方法を検討し理事会に諮ったが、より綿密な検定制度を検討するよう回答があった。来シーズンの検定実施を目指して検討を続けているが、長野県では先行して県パト検定を行う予定である。【秋元】

過去にスキー以外でのパト受検の問い合わせがあったが、テレマークで受検し合格した者はいる。ボード受検を認めることで、受検者増を図れるのではないかと。従来のパトロール検定と同じ種目、同じ斜面でできるよう、配付資料のような種目設定とした。【鈴木】

今シーズンの長野県パトロール検定は 1 月 8 日～10 日、志賀高原でボードでの受検も可として実施する。長野県パトの受検者は 20～30 人いて、その中に普段はボードをはいているのに、受検の時だけスキーの練習をして受検する者が数人いる。SAJ のパトロール受検者は 2～3 人しかいない。長野県の索道協会の調査によると、5 人に 1 人はボードパトロールで、有資格者はごく一部である。ボードでの検定種目について他に案があれば提案願いたい。パトロール技術員(ボードの有資格者もいるが)が検定を行うが、スノーボーダーを見慣れているので技術の優劣は分かるし、ボードによる搬送技術はなおさらである。長野県内の現職パトロールの有資格者率は半分。【田村】

・スキー場で活動しているパトロールの有資格率はかなり低いのでは。栃木県内では 2 割程度。ちなみにハンターの隊長はボーダーでパトロール資格は無い。索道あるいは SAJ から何か手を打てないか。【栃木県・新井】

・スキースクールでも同じような問題がある。スキー修学旅行のインストラクターのなかには、指導員はおろか級も持っていないのが多い。SAJ から資格を持たない者は指導するなど指示があり、その対策として認定指導員制度を作ったところ、一年で 1900 人も受検した。【田村】

(6)その他の審議事項

・昨年のパトロール合格者は 50 弱と減少しているが、全国のスキー場の数はそんなに減っていない。パトロール活動を行うための資格に関する法整備（関係省庁は国土交通省、観光庁、スポーツ庁、厚生労働省など）が必要だろう。【田村】

・全国スキー安全対策協議会（ス安対）は SAJ から役員を派遣している団体で、FIS10 ルールポスターの配布やスキー場標識の統一、スキー場管理区域の問題、スキー場傷害調査等、外国人スキーヤー対応等、雪上安全に関わる活動を精力的に展開しているので今後も連携を密にしたい。パトロール養成講習の担当者は専門委員（安全対策部）かパトロール技術員でなければならないと規程に謳っているが、有資格者がいない県連は近隣県連と連携し、養成講習をやってもらいたい。【秋元】

・長野県で、日本人一般スキーヤーに外国人スキーヤーが衝突して、日本人スキーヤーが死亡したが、外国人スキーヤーが旅費の関係で帰国してしまった。賠償責任等の問題が発生するので苦慮している。【田村】

6. 報告事項

(1) 各加盟団体報告【資料 01_0】

【北海道・山村 誠】追加資料として「スキー場傷害調査報告書（資料 01_1）」北海道内 96 スキー場に調査依頼し、協力のあった 44 スキー場の調査結果をまとめたものを、各スキー場に配布しリスクマネージメント等に活用してもらっている。北海道では全国スキーパトロール総会・スキーパトロール研修会（東日本会場）が富良野スキー場で開催されるので多くの参加をお待ちしている。

【青森県・竹原 伸郎】ロープボートを用いた研修を行っている。春山訓練では、草津スキー場の噴火事故等について理論研修、八甲田ツアーを行った。今シーズンも行う予定。

【岩手県・高畑 伸也】義務研修が 3 年から 2 年に 1 回となり、リハビリ・テーピング等の研修を行う。

【秋田県・高橋 一彰】パトロール研修会は指導者研修会と併催で同時受講者もいるので、パトロールも絡めて講習したい。

【茨城県・高瀬 勝則】指導者研修会で指導者に救急バック携行を義務づけ、指導者研修会参加者全員に雪上救急法実技講習を実施し、事故防止啓蒙活動を継続している。

【栃木県・新井和夫】今シーズン初めて県連主管パトロール研修会を茨城県と合同開催する。栃木県の有資格者は 50 名弱で、そのほとんどが資格停止状態なので、有資格者の掘り起こしをしたい。

【群馬県・森山直温、中澤 卓】県 3 エリア合同のパトロール隊長会議で情報交換をしている。草津白根山噴火により、電線が切れリフトは止まる電気が点かない、火山灰でスキーが滑らない、なんとかモービルが動かせる状況下で、噴火後 1 時間弱ですべての救助を終了できた。ゲレンデ内全旅客の避難完了を確認したことが評価された。山頂駅舎に取り残された 80 名の旅客を夕方 6 時までにはすべて下山させることができた。普段の訓練により救助できたと思う。

【埼玉県・佐藤 俊寿】安全対策委員会の体制に変更があった。昨年度の不合格者は再受検する。養成講習のアキヤ搬送練習場所の確保が難しい。

【千葉県・吉田 浩二】千葉県連に安全対策委員会は無い。

【東京都・三井 晃一】資料に追加で、指導者養成講習会に理論講師を派遣した。安全対策講習会の参加者が年々減少しているので、増やす方法を検討している。

【神奈川県・上杉 一哲】事故防止の啓蒙活動に取り組んでいる。昨シーズンからニュースタイル委員会ができ、バックカントリーの安全対策に取り組んでいる。2 年続けて不合格者が出ているので、養成講習をしっかりとやる。

【山梨県・佐藤 眞久】舟久保委員長の代理出席。今後県連主管のパトロール研修会を実施する方向で検討する。

【長野県・田村 一司】資料の通り。

【石川県・吉本 幸司】JPTEC ファーストレスポonderコースを初めて開催できた。重大スキー事故のほとんどが高エネルギー外傷となるので、ネックカラー装着とバックボード固定は必須技術といえる。各スキー場でのビーコンの導入を進めている。

【福井県・扇浦 行弘】SAJパトロール研修会(西日本会場)の参加にお礼を申し上げる。パトロールの高齢化が進んでいるので対策を立てたい。ボードパトロールも増やしたい。

【愛知県・福岡 優子】県内唯一のスキー場にパトロールを派遣している。有資格者は多いが資格停止が多いので研修会参加を促したい。ザイル・三角巾の復習会を開催し、技術を忘れないようにしたい。

【岐阜県・内方 陽一】県パト検定はロープボートで実施している。有資格者 140 名中、有効 39 名しかいない。今年初めて県連主管研修会を平湯温泉で開催する。東海北陸ブロックの養成講習は富山県で実施する。

【滋賀県・長尾 卓哉】スノーボードパトロールの養成を検討している。県内に 6 スキー場ありインバウンドも増えている。横のつながりを大切にし対策を立てたい。

【広島県・平川 朝水】ロープ・三角巾の強化合宿を行い、検定種目の他ロープレスキューについても研修した。

【兵庫県・米田 幸雄】準指導員・指導員の養成講習理論講師を派遣した。ブロック合同パトロール養成講習を行った。スキー場傷害調査を実施した。

【宮城県・三神 良太】例年通り事業を行った。指導者研修会の中で、スクール事故をきっかけとして安全対策志向別班を初めて設けた。これをきっかけとしてパトロール受検者が増えることを期待している。

・スキーのケガによる PTSD から不登校になった子どもが、スキースクール保険の支払い対象となった事例がある

【田村】

(2)2018 安全対策部事業報告は、2017-2018 教育本部報告書に記載されているが、安全対策部ホームページにもアップしているので利用されたい。【田村】

(3)2018 全国安全対策委員長会議議事録【配付資料 04】は、安全対策部ホームページにアップしているのでこちらも利用されたい。【田村】

(4)第 23 回雪上滑走具関係団体意見交換会【配付資料 05】は、雪上安全に関わる諸団体の意見を参考にされたい。【田村】

(5)その他

・我々スキーパトロールの業務はスキー界だけでなく、医師・弁護士・救急隊・スキー用品メーカー等他団体とも連携しながら仕事を進めなければならない。日本スキーパトロール協議会(JSPA)は SAJ の事業に協力しパトロール相互の親睦を図る団体で、パトロール検定会や研修会等で行動を共にしている。愛知県連から参加している JSPA 広報担当の福岡優子さんより報告をお願いします。【田村】

・今年 2018/9/1-2 に岩手県平泉で第 47 回総会を開催し多くの皆様の参加に感謝申し上げます。次年度は 2019/8/31-9/1 に北海道定山溪温泉で開催し、余市での観光を予定しているので、多くの参加をお待ちしてい

る。会議後に JSPA 懇親会を予定しているのでご参加ください。【福岡優子】

・2017-2018 教育本部報告書が加盟団体宛送付されたが、その中の安全対策部報告書や FIPS 報告書は安全対策部ホームページからダウンロードできるのでこちらも利用されたい。SAJ 関連出版物が 10 月 17 日に山と溪谷社より発売開始された。スキー教程安全編は正誤表に基づき訂正したものが、2018 年 11 月 1 日に山と溪谷社より発行された。スキージャーナル社発行の教程と同じ本であると受検者に説明願いたい。オフィシャルブックは 3 分冊から 1 冊となり、従来の規約・規程別刷りは SAJ ホームページに掲載し、各種申し込み様式は SAJ ホームページに掲載する。資格検定受検者のためには従来通り出版された。【富樫】

・パトロールが現場で多用するもやい結びや巻き結びを、新しい教程から削除したため多くの方からお叱りを受けた。次期教程にむけてロープ内容は精査する。【田村】

・前教程で取り扱ったロープワークやもやい結びを削除した経緯はホームページで補足説明しているのでそちらを参照してもらいたい。【富樫】

理事講評

初めてこの会議に出席したが、横のつながりがしっかりとれて、良いコミュニケーションができた会議だったと感じた。一致団結して頑張ってもらいたい。【白石】

7. 閉会宣言【鈴木】